



医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第98号



第99回ワーキンググループ会議 (R4.3.24)

「突然の別れに遭遇したとき」

●話題提供者 滋賀医科大学医学部社会医学講座
一杉 正仁 さん

一杉先生のご専門は社会医学・予防医学で、自他殺・事故死の死因究明や、非虐待者の診察・鑑定にも携わっていらっしゃいます。
今回の講義では次の5点についてお話しいただきました。

- 予期せぬ急な死に遭遇した家族は
- 在宅看取りと対比して考える
- 家族に対する心のケア
- 災害時における急性期の遺族ケア
- 子どもを亡くした家族へのグリーフケア

「心のケア相談窓口」を滋賀医科大学のご自身の講座内に設置されるなど、ご講演からは、被害者やご遺族に寄り添い、真摯に向き合われる姿が伝わってきました。

特に、小児のターミナルケアや、交通事故など予防できる死の対策の立案、子どもを亡くされたご家族へのグリーフケアなどに熱心に取り組まれており、先日「**子どもの死を減らし、より良い医療と支援体制を構築するための提言**」を含めた報告書を滋賀県知事あてに提出されました。

この提言には、次の3点が盛り込まれています。

- ◎目的と意義について、従来から明記されている「子どもの死亡に関する効果的な予防策を導き出すこと」に加え、「子どもをめぐる医療と支援体制の向上」を追加する。
- ◎死が不可避な児について、多職種の関係者が、早期から家族に対する心のケアを推進する。また、児の死後に、家族に対するグリーフケアを推進する。
- ◎子どもを突然亡くした家族に対しては、その背景を鑑み、たうえて、グリーフケアを推進する。

看取りを予定していても想定外のことは起こりえます。

だからこそ医師、医療従事者などの関係者は「予期せぬ急な死」と「看取り」の両方を理解して実践できること、そして、ご遺族への十分な説明をし、傾聴し共感することが大切というお話が印象的でした。



【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和4年4月28日(木) 18:30~20:00
- 場所：滋賀県庁 新館7階大会議室 (Web可)
- テーマ：
「コロナの在宅療養、ホテル療養の現状とケアの工夫」
- 話題提供者：
訪問看護ステーションオリーブ
所長/訪問看護師 角野 めぐみ さん



参加者の声

○医療的ケア児の訪問に行っている。もしものことがあるかもしれない・・・そういうお家に伺っていることを改めて認識した。医科・歯科・薬科と医療的ケア児に訪問されている方々の、いろいろなお話が聞きたい。

○ご本人を大事に思うご家族の悲しみの深さや言葉への配慮を痛感した。最近のテレビでも子供を交通事故で亡くした母親は配慮のない言葉で傷つき「20年経っても忘れられない」と報道されていたが、先生のお話はしっかり腑に落ちました。

○一杉先生からご紹介のあった様々な活動は、予期せぬ悲しい出来事に遭遇し、悩み苦しむ方々に、いや、ある日突然そんな状況になるかもしれない県民に、もっと広くご案内すべきではないかと思った。

○高齢者の看取りにおいても突然予期せぬ「別れ」があり、明確な対比ができないとお話しされていて納得ができた。やはり、支援者が家族や介護者に丁寧な説明をすることが重要であり、様々な支援における説明が必要であると思う。

家族を亡くされた方のグリーフケアについての取り組みを知りたい。

○普段知る事がない世界の話でとても刺激を頂いた。また滋賀県内で一日に20名程度の児童が虐待されている事実を今まで考える事が無かったのもとても考えさせられた。心のケアの難しさを知れたと同時に、ケアのみに留まらずに残された遺族の為に事故防止や、滋賀県をより良くして行こうとしている取り組みに感動した。

○今までとは少し違う切り口から死や看取りについて考える機会となり、大変勉強になった。

残された家族の心のケア、グリーフケアの取組等難しいところもあると思うが、それぞれの立場や状況に応じて対応できることが大切と感じた。

○相談従事者として相談で二次被害をあたえることがないよう、自己の相談およびコミュニケーションスキルの資質向上が必要と改めて感じた。

○拝聴後も色々考えることの多い内容だった。

何度か、周産期の現場でお子さんをお亡くされたご家族に対応したことを思い出した。ご遺族の悲嘆はとても深く、どのような言葉をかけてよいか本当に迷ったことを覚えている。スタッフの一言で気持ちが軽くなることもあれば、その逆もあり得るのだと改めて感じた。遺族のケアについてもっと世の中が関心を寄せ、少しでも気持ちが穏やかに過ごせるようなご遺族が増えることを願います。

○在宅看取りと予期しない急な死に遭遇した家族の違い(家族の思いの変化、ケアの仕方、医師の対応など)を具体的に話してください、とても理解、共感できた。また、現状の問題点も、これからの課題もわかった。

グリーフケアの大切さは自分なりに理解していたが、もっときめ細かに、ケースによって柔軟な長期的ケアの必要と感じた。



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

Fax 077-528-4851

e-mail info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

